

5月28日、総務常任委員会は、特別養護老人ホーム組合「葉山荘」と津野山養護老人ホーム組合「高原荘」に関する調査を行った。



葉山荘にて



高原荘にて

○調査内容

今般の介護保険制度の改正については、4月以降順次施行されている。

団塊の世代が75歳を迎える2025年問題が10年後に迫った2015年、ついに大きな制度改革がなされることとなった。

特別養護老人ホームにおいても新規入所者を原則、要介護度3以上に限定する制度改革や2000年に介護保険が施行されて以降、9年ぶりとなる介護報酬のマイナス改定である。介護報酬見直しは介護現場にもたらす影響も含め、現状と課題について調査を行った。

●入所状況

葉山荘では、定員110人に対し、死亡・入院のため若干定員割れがある。

高原荘では、特別養護老人ホーム定員30人に対し入所希望者の待機者がいるが、養護老人ホーム定員50人に対しては退所者や重度化し特養へ移るなどで平成23年以降定員割れの状態が続いており何らか

の対策を講じる必要がある。

●施設

葉山荘は昭和47年に建築された施設であり、雨天の日には廊下が水浸しになり転倒の危険性が大きくなるなど老朽化の問題も出ている。

両施設とも太陽光発電施設を施工中であり、経費の削減が見込まれる。

●職員

葉山荘は、正職員38人、臨時職員63人である。

高原荘は、正職員26人、非正規職員39人であり、改めて介護の現場は多くの非正規職員によって支えられている現実を目の当たりにした。求人広告を出してもなかなか人材の確保は難しいという。

介護度が上がれば介護者への負担も上がる。今後は介護従事者の労働環境の改善・充実が必要となる。また、専門学校への働きかけ等も視野に入れ人材確保に努められたい。

●まとめ

今回の訪問では入所者が救

急搬送された病院で処置を行うための家族の承諾が遅れ歯がゆい思いをしたこと、施設の「看取り」等、厳しい環境にあっても創意工夫をこらした利用者や家族の意に沿って介護に努める職員の熱い思いが伝わってきた。

